

早稲田大学大学院 創造理工学研究科

博士論文審査報告書

論 文 題 目

TWO BOUNDARY SPACES IN THE CLASSICAL
GARDENS OF SUZHOU, CHINA

– Study on the Spatial Composition of the Perimeter Wall
and the Shoreline

中国蘇州の古典園林における二つの「境界空間」
– 外郭線と湖岸線による空間構成の研究

申 請 者

Wenxi	LI
麗	文曦

建築学専攻 建築空間論研究

2020年2月

本研究は、代表的な中国古典園林のひとつである蘇州園林の平面配置に注目した空間構成についての研究である。研究対象として典型的な九つの蘇州園林を扱う。特に蘇州園林の空間構成の特徴がよく表れていると考えられる二種類の「境界空間 (Boundary Space)」、すなわち外郭線空間 (Perimeter Wall Space) および湖岸線空間 (Shoreline Space) に注目し、蘇州園林の空間構成を抽象的な図式 (ダイアグラム) に表し、数値的に分析することで、その傾向と特徴を明らかにしている。加えて中国独特の伝統的な美学的特徴であり、園林にもみられる「意境 (Yi Jing)」について、本研究で明らかにした空間構成の特徴を基にした考察を行なっている。

各章の要旨は以下の通りである。

第1章では研究背景として、江南の地理的特徴、蘇州の歴史的な文脈、代表的な九つの蘇州園林についての基本的な事項について述べる。また、園林空間の美しさを表現する際などにも用いられる伝統的な「意境」について既往研究を分析し、まとめている。「意境」の特徴は「程度 (degree)」、「方式 (mode)」、「範囲 (scope)」の抽象的な概念に関連して記述されているとする一方で、「意境」の概念は人間の主観的な感性による部分が多く、既往研究ではそれぞれの概念と具体的な園林の空間構成との関係性については述べられていない。

第2章は研究目的について述べ、蘇州の古典園林を構成する様々な要素の平面配置に注目し、その空間構成の特徴を明らかにすることを本研究の目的としている。蘇州古典園林の平面配置を抽象的なダイアグラム化して分析する研究はこれまでになく、そのデータ分析の結果を示すこと自体が極めて重要なものと認められる。あわせて、分析結果から明らかになる空間構成の傾向と、蘇州園林において重要な美学的概念である「意境」との関係についての考察を行うことも目的としている。

第3章では研究対象について述べ、九つの典型的な蘇州園林を対象として取り上げている。蘇州園林には大きな空間的な特徴が二つあるとして、以下の二種類のものを挙げている：

1. 構造：中心と境界
2. 要素：建築要素と景観要素

「構造：中心と境界」と「要素：建築要素と景観要素」は、二種類の「境界空間」にまとまって良くあらわれていることに注目して、本研究では園林の「境界空間」を取り上げて、それぞれの園林の空間構成の特徴を明らかにしている。「境界空間」には、園林とその外部との境界線である外郭線を主要素 (Core Element) とするものと、園林の内部にある湖水 (池) との境界線である湖岸線を主要素とするものの二つを取り上げ、それらをそれぞれ「外郭線空間」と「湖岸線空間」として、著者が独自に定義している。これらの「境界空間」を、園林の入口を起点として反時計回り方向に分割して分析を行ったこととあわせて、本研究の独創性がよく表れている。

第4章では既往研究について、二種類に分けて記している。一つは中国語

で書かれた文献、もう一つは中国語以外で書かれた文献（特に日本の研究者が書いた文献）である。その上で、文献を主に四つのカテゴリーに分類し、本論文は、それらのうちの空間の各構成要素の形とその関係を扱った研究のカテゴリーに属するものとしている。

第5章では研究方法についての概略と流れを示している。まず、蘇州園林の二つの特徴である「構造：中心と境界」と「要素：建築要素と景観要素」について分析している。「構造」と「要素」は、それぞれ幾つかのタイプに分類することができ、さらに空間を部分ごとに細分化して分析するため、それらを抽象化した図式（ダイアグラム）として表し、最終的にはそれらをデータとして数値化することで、園林の空間構成の傾向を明らかにしている。

第6章では具体的に分析を進めるための各用語の定義を行い、以下のような分類を行っている。

- ① まず園林における幾つかの空間的概念を定義している。具体的には「中心（Center）」、「境界面の透明性（Transparency of the Interface）」、「湖岸線形式（Shoreline Form）」、「不可視の境界（Virtual Boundary）」、「境界の径（Boundary Path）」などが挙げられる。
- ② 次に「境界空間」における要素類型を定義している。具体的には「主要素（Core Elements）」、「付属要素（Affiliated Elements）」、「景観要素（Landscape Elements）」を挙げている。
- ③ 異なる形態と空間的意図によって、園林の「境界空間」を五つの型に分けている。すなわち「分割（Separate）」、「転換（Turn）」、「囲い（Enclose）」という三つの基本型と、「不連続（Disconnect）」、「並列（Juxtapose）」という二つの複合型である。
- ④ さらに「主要素」とその「付属要素」が形成する関係を「取巻き（Surround）」、「内含（Contain）」、「接合（Paste）」、「裁断（Interrupt）」という四種類に分けている。
- ⑤ その上で、蘇州園林にみる外郭線の周りの庭側の境界空間を「外郭線空間」として、岸線の周りの庭側の境界空間を「湖岸線空間」として定義している。この二つの「境界空間」の関係を以下の三つに分けている：
 1. 完全に含まれる
 2. 部分的に含まれる
 3. 分離している
- ⑥ 最後に、蘇州の古典園林の「境界空間」を以下の三つに分類している。
 1. 主要素における外郭線、又は湖岸線そのものの形態の変化によるもの
 2. 付属要素の分布状況によるもの
 3. 中心の変化によるもの

第7章では、上記の分類によって、空間構成のダイアグラムを作成し、研究結果としてまとめている。具体的には、「外郭線空間」についての137のダイアグラムと「湖岸線空間」についての97のダイアグラムを作成して、緻密

なデータ分析を行い、詳細な表を作成している。

第8章は研究結果のまとめである。137のダイアグラムを数値的に分析することによる詳細な分析結果を述べ、特に「外郭線空間」は4つの異なったスケールの小さい庭園(Courtyard)の組合せからなることを明らかにしている。さらに、それらを構成する要素として、外郭線の壁に建築的要素が接している「接合(Paste)」にその要素が最も多く見られることが明らかになったとしている。この「接合」は「外郭線空間」全体としては、外部との境界である壁の存在を視覚的に消すことで、心理的に鑑賞者が感じる庭の範囲を拡大する役割を果たすと考察している。

「湖岸線空間」では、97のダイアグラムを分析し、湖岸線から1~6メートルの範囲に建築的要素の「付属要素」が最も多く分布すること、これによって「湖岸線空間」は園林の中で緊張感を持つ範囲として認識され、それぞれの庭園において中心を形成することを述べている。また、園林内の経路は、この2つの「境界空間」の間をつなぐことで、ダイナミックな経験をもたらすと指摘している。

最後に、「意境」と園林の空間構成について考察している。「意境」の特徴が現れる3つの概念について、蘇州園林の図式(ダイアグラム)の分析を通して、以下の特徴と対応することを明らかにした。

- 1 「程度(degree)」: 園林にみられる建築要素と景観要素の種類の多様性
- 2 「方式(mode)」: 建築要素と景観要素のダイナミックな構成
- 3 「範囲(scope)」: 建築要素と景観要素の密度

観念的な美学的概念である「意境」について、具体的な園林の空間構成との対応を示したことは、これまでにないものとして高く評価できる。

以上を要するに、本研究は図式(ダイアグラム)を用いた空間構成の分析方法を中国古典園林に対して初めて適用することで、蘇州園林が持つ重要な空間構成の傾向を明らかにし、中国伝統の抽象的な美学的概念である「意境」の蘇州園林の空間構成への具体的な表象を的確に分析しており、これらの成果は、建築学の発展に寄与するところ大である。よって、本論文は博士(建築学)の学位論文に値するものと認める。

2020年2月

審査員

主査	早稲田大学教授	古谷 誠章	_____
副査	早稲田大学准教授	藤井 由理	_____
	早稲田大学教授		
	博士(建築学) 早稲田大学	吉村 靖孝	_____
	早稲田大学准教授	小林 惠吾	_____